

普通科目（日本史A）の学習指導案 17No5

1. 指導目標

- (1) 産業技術（溶接など加工技術、船舶や自動車の組立てなど生産技術）の発達がどのような時代的背景の下でもたらされ、それが人々の日常生活にどのような影響をもたらしたかを追及させる。
- (2) 産業は、高度な技術が特許制度など法的に保護されことで発展できたことを理解させる。

2. 指導項目・内容

	指導項目・内容	時間(分)	指導上の留意点
導 入	・ 本時の目標を確認する。 ・ 「技術」とは何かを考えさせる。	5	・ 「技術」とは、科学上の成果を生産の目的で実用化するテクノロジーであることを理解させる。
展 開	・ 西欧の産業革命を説明する。 ・ 明治維新後の日本の近代化について解説する。(殖産興業、文明開化) ・ 「電気と生活」 平賀源内の発明を紹介する。 アーク灯と白熱電球、火力発電と水力発電、高度成長期、家庭電化製品の普及(扇風機、ラジオなど) ・ 「技術と生活」 交通、通信、テレビやトランジスタなどの発明について説明する。 ・ 「技術の導入」 技術の光と影について説明する。	85	・ 蒸気機関に触れる。 ・ 外国から組織的な技術移転がおこなわれた点に留意させる。 ・ 平賀源内の功績を紹介する。 ・ 実際の映像を視聴させる。 ・ 特許制度について説明する。 ・ 発明品を具体的に紹介し、理解を深めさせる。 ・ 公害や環境破壊に触れる。
整 理	・ 産業技術が人々の生活をどのように変えたかをまとめる。 ・ 発明の大切さを認識させる。	10	・ 明るい展望をもたせる。 ・ 知的創造サイクルに触れる。
備 考	「現代の日本史（日本史A）」〈山川出版社〉P125～P128「産業技術の発達と生活」		